

## 第5学年 社会科学習指導案

### 1 単元 環境をともに守る

#### 2 指導観

- 本学級の児童は、日本製鉄九州製鉄所を訪れ、鉄が作られる過程を見学し、鉄づくりに関わる人々の工夫や努力について学習している。また、1/3の児童の保護者は日本製鉄に勤務しており、北九州市の工業生産に関する関心は高い。しかし、工業を発展させたいという思いだけでなく、環境のことにも配慮しながら工業生産を行っていることに着目している児童は少ない。また、社会科学習への取り組み方については、1人1人が自分の意見をもち、積極的に発言をすることはできているが、他の児童の意見を聞きながら考えを比べ、社会的事象についての考えを練り上げることができる児童は少ない。そして、学んだことを生かして自らの生活やこれからの地域発展のために行動しようとするまでには至っていない。
- 本単元は、学習指導要領第5学年の内容(5)のアの(ウ)及び(エ)とイの(ウ)をもとに設定したものであり、「公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、教科書や各種の資料で調べ、まとめ、公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現することを通して、市・工場・地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解できるようにするとともに、地域の環境を守り続けるために自分たちができることなどを考えようとする態度を養う」ことをねらいとしている。
- 本単元の指導に当たっては、次の手立てをとる。

#### 【着眼1】地域教材の工夫

高度経済成長期における北九州市は、八幡製鉄所などの活躍により、目覚ましい発展を遂げ、その主力は朝鮮戦争以降 1959年に戸畑に建設された最新鋭の工場に移っていった。北九州市の発展、そして市民の雇用の場として重要な役割を果たしている一方で、本校区でもある工場近くの三六地区では降灰が特にひどく、子どもを中心に「三六喘息」とよばれる病を引き起こすなど、健康被害が甚大であった。工場の発展は町の誇りであり、父親が工場勤務である家庭が多い中で、公害に対する声を挙げることは難しかったが、様々な葛藤の中で、子どもたちの健康を願って動き出したのは中原地区、そして三六地区の母親たちであった。本校の児童にとって、自分たちの住む地域が過去にこのような状況に置かれていたこと、そして地域の母親たちが婦人会を結成し、声を挙げることへの葛藤、公害克服に対する願いや努力などについて考えることは、追究意欲の持続を図り、地域への愛着をもたせるとともに、1人1人の協力が大切であるということ捉えさせる上で大変意義あることだと考える。

#### 【着眼2】問題解決的な学習活動の工夫

まず、「つかむ段階」では、1960年代と現在の北九州市の写真を提示し、その2つを比較するとともに、どのようにしてこのような環境改善が行われたのかという関心や疑問をもつことができるようにする。その際、公害の具体的な被害とともに工場の繁栄が地域の誇りでもあったことを理解することができるように、当時の城山小学校の写真や児童数の推移などの資料、戸畑市歌などを提示する。「さぐる・考える段階」では、公害克

服に向けた人々の葛藤や努力を具体的に捉えることができるように、まちづくり協議会の方の話を聞いたり、市民センターが発行した資料を提示したりする。「生かす活動」では児童が環境を守るためにできることを具体的に考え、行動に移すことができるように、北九州市が現在行っている環境保全のための取組について教科書やICTを活用して調べさせたり、提言書を書かせたりする。

【着眼3】社会的な見方・考え方を働かせた表現活動の工夫

ホワイトボードを活用して、関係図にまとめ表現するようにする。関係図を友達と話し合い、加筆・修正することによって、工場発展とそれによる公害の被害と、「工場で働く人」「家事をする人」「子ども」の3者の立場を関連付けて考えさせ、当時の人々の葛藤について理解を深めるようにする。

3 目標

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市・工場・市民の人々の様々な努力や協力により公害の防止や生活環境の改善が図られたことや公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解する。</li> <li>○ 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などについて、写真や年表などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、文などにまとめることができる。</li> </ul>
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公害の発生時期や経過、公害克服に向けての人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取り組みを捉え、その働きを考え表現する。</li> </ul>
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境を保全し、国民の健康な生活を守るためには、1人1人の努力や協力が必要であることに気付き、自分たちができることを考えようとする。</li> </ul>

4 指導計画(総時間 5時間)

学習活動	○主な指導上の留意点	【観点】評価基準 (評価方法)
<p>1 1960年ごろと現在の北九州市の空と海の様子を比較し、違いを話し合うとともに、出てきた疑問や関心をもとに学習問題を設定する。 ①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境改善が行われたことを理解することができるように1960年ごろと現在の北九州市の空と洞海湾が写った写真を掲示する。</li> <li>○ 当時の環境の悪さが国民生活にどのような被害を及ぼしたかを考えることができるように、教科書の写真や資料を提示する。(廃校、魚など) (「みんなで守ろう!きれいな地球第7版」)</li> <li>○ 工場の活躍が、現在の北九州市の発展につながり、地域の誇りになっていたことを理解できるように資料を提示する。(市歌)</li> <li>○ 現在では環境未来都市として世界でも注目されるまちになったことを理解することができるようにする。</li> </ul>	<p>【主】北九州市の環境の変化について関心をもつとともに、どのように環境が改善されたのかに疑問をもち、学習問題を考えている。(発言・ノート)</p>

[学習問題] 北九州市では、(問①) だれがどのようにして環境を改善し、  
(問②) 今も守り続けられているのだろうか。

<p>2 学習問題を解決するための学習計画を考え、当時の北九州市の様子について調べる。 ①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習問題を解決していくための方法について見通しをもつことができるように学習計画を立てる。</li> <li>○ 工場の発展が北九州市の発展を支えたことと、その結果起こった公害の被害の状況を理解することができるように、資料を基に調べさせる。</li> </ul>	<p>【思】疑問に思ったことや知りたいことを基に、自分の予想をもつとともに、学習問題を解決するための学習計画を立てている。(発言・ノート)</p>
<p>3 北九州市では、だれがどのような取組をして環境改善が行われたのかを調べる。 本時【1/2】 ②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事実を基に、当時の人々の暮らしの様子を考えることができるように、前時で調べた工場の発展と公害の被害について全体で共有し、理解を深めさせる。</li> <li>○ 婦人会が公害克服のための声を挙げるまでの葛藤を考えることができるように、「家事をする人」「工場で働く人」「子ども」の3つの視点で、それぞれがおかれている立場や思いについて話し合わせる。</li> <li>○ 市民・市・工場が協力し、環境改善が行われたことを理解することができるように、教科書を参考にし、互いの取組を関係図にまとめさせる。</li> </ul>	<p>【思】北九州市の発展のために工場が果たした役割や、健康被害などの事実を基に、地域に住んでいた人々の葛藤について考えている。 (ホワイトボード・ノート・発言)</p> <p>【知】市民・市・工場それぞれが公害をなくすために果たした役割を的確に読み取り、関係図にまとめることで、地域で一体となって努力を重ねたことが環境の改善につながったことを理解している。(発言・ノート)</p>
<p>4 取り戻した美しい自然を守り続けるために、現在はどのような取組をしているのかを調べ、自分たちにも環境を保全するためにできることを考える。 ②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取り戻した美しい自然を守るために、現在でも、市民・市・工場が様々な取組を行い、世界で注目されるような環境都市になっていることを理解することができるように、教科書やインターネットを参考にして調べさせる。</li> <li>○ 調べたことをもとに、自分たちができることを考え、実践することができるように、「環境を守るための提言書」を書かせる。</li> </ul>	<p>【知】北九州市では、過去の公害の経験を忘れず、環境を守る様々な取組を現在も続けていることを理解している。 (ノート・発言)</p> <p>【主】健康に過ごせる環境を守り続けていくためには、その中で暮らす1人1人の協力が大切であることに気づき、自分ができることを考えようとしている。 (提言書)</p>

## 5 本時の学習

(1) 日時 令和5年11月22日(水)5校時 於 5年1組教室

(2) 主眼 北九州市が工業を中心として発展していったと同時に、公害が発生していたことを捉え、当時戸畑三六地区に住んでいた人々の暮らしの様子を話し合うことを通して、工業の発展と公害の被害の間での葛藤について考えることができるようにする。

(3) 準備 教師…ホワイトボード・付箋・声掛け支援表 / 児童…教科書・ノート

(4) 展開

主な学習活動・内容	○指導上の留意点 【観点】評価基準(評価方法)
<p>1 前時で調べたことを全体で共有する。</p> <p>・工業による北九州市の発展と公害の被害について</p>	<p>○ 工業によって北九州市が発展したことと、その結果として公害被害が現れたことを理解することができるように、前時で各自が調べたことを共有する。</p> <p>○ かつて繁栄のシンボルであった工業と、その結果発生した公害のせいで人々が苦しんでいたということを理解することができるように、出てきた意見を板書していく。</p>
<p><b>(めあて) 北九州市で公害が広がる中で、三六地区の人々はどのような暮らしをしていたのだろうか。</b></p>	
<p>2 一家の中で「家事をする人」「工場働く人」「子ども」の3つの立場の人々がどのような状況で、公害に対してどのような思いをもっていたのかを考える。</p> <p>・個人思考(付箋の活用)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・ホワイトボードミーティング</p>	<p>○ 問題を自分事として考えることができるように、当時地域に住んでいた一家を例示し、「もしその時代に自分たちが三六地区にすんでいたら」という視点から、3者の立場について考えさせる。</p> <p>○ それぞれの立場の人の思いが可視化できるように、グループでホワイトボードミーティングをする。</p> <p>○ 気持ちの面ばかりではなく、北九州市の発展と公害被害といった事実を基に考えることができるように、前時で調べたことに立ち返るように声掛けをする。</p>
<p>3 当時の三六地区の状況や、人々の思いについて GT が話している映像を視聴し、本時の学習をまとめる。</p>	<p>○ 児童の考えたものが実際どうだったか確かめるために、GTに当時の家庭の様子について話をしていただく。</p> <p>【思・判・表】地域に住んでいた人々の葛藤について考え、適切に表現している。(ホワイトボード・ノート・発言)</p>
<p><b>(まとめ) 北九州市では、工業の発展と公害の被害の間で苦しんでいる三六地区のような地域の人々がいて、様々な悩みを抱えて生活しながら、何とかしなければと考えていた。</b></p>	
<p>4 婦人会が公害による被害について調査する写真を提示し、本時のふり返りをする。</p>	<p>○ 児童が、「この人たちは誰だろう?」「どんなことをして公害を克服したのかな?」「早く調べてみたい。」と、疑問や調べる意欲をもつことができるように、婦人会が公害についての調査をしている写真を提示する。</p>

